

なにわの



恐竜時代展

見本

はじめに

ス ゲェえええ！！！！！！！！！！
化石って大阪で採れるんですね！！
正直に言うと、化石が採れる場所ってもっと“いかにも”な所だと思っていました。モンゴルの荒野や、中国の砂漠、グランドキャニオンのような場所でこそ、太古の世界は写せるのだと。けれど今回、僕がシャッターを切った場所は大阪でした。

ファインダー越しに見つめたのは、宇都宮さんが発掘した化石の数々。鉄とコンクリートの都市の側に、何千万年、何億年という時間が閉じ込められていたのです。

プレートが動き、海だった場所が押し上げられ、日本列島が形づくられた。教科書で習った理屈が、化石を前にした瞬間、体験に変わります。

大阪は、ただの街ではなく、かつて恐竜が歩いていたのかも知れない。モササウルスが泳いでいた海だったのかもしれない。今、何気なく立っている足元。そこは奇跡のような場所なのかもしれない。

展示している化石は、すべて宇都宮さんが発見された物です。その化石にインスピレーションを受けた4人の画家が、それぞれの視点で太古の情景を復元しました。化石という事実と復元画という想像。その両方が重なることで、きっと太古の世界が見えてくるはず。なにわで何千万年、何億年という恐竜時代を感じてみてください！！いつもと同じはずの景色が、また違って見えてくるかも知れません。

生物探検家 トノムラ

ご挨拶

みなさんは**恐竜の化石がどこで発掘されている**と思われますか。モンゴル・北米・モロッコなど、海外の辺境を想像されるかもしれませんが。ところが、皆さんが暮らしている、この**大阪をはじめとする近畿圏～西日本にも恐竜時代の地層が分布しており、恐竜や海竜など沢山の古生物の化石が発見されている**のです。今回の展示会では、私が日本で発見した3つの大きな発見（大阪和泉のモササウルス類・和歌山湯浅のスピノサウルス類・石川白山の巨大獣脚類）をメイン展示として、それを題材に4人の古生物イラストレーターの皆さんが自由な発想で、白亜紀当時の生息環境を復元しました。**化石現物 × 復元画のコラボ展示**になります。遠い恐竜時代に思いをはせて、ご覧頂ければ幸いです。

展示代表 化石ハンター 宇都宮 聡



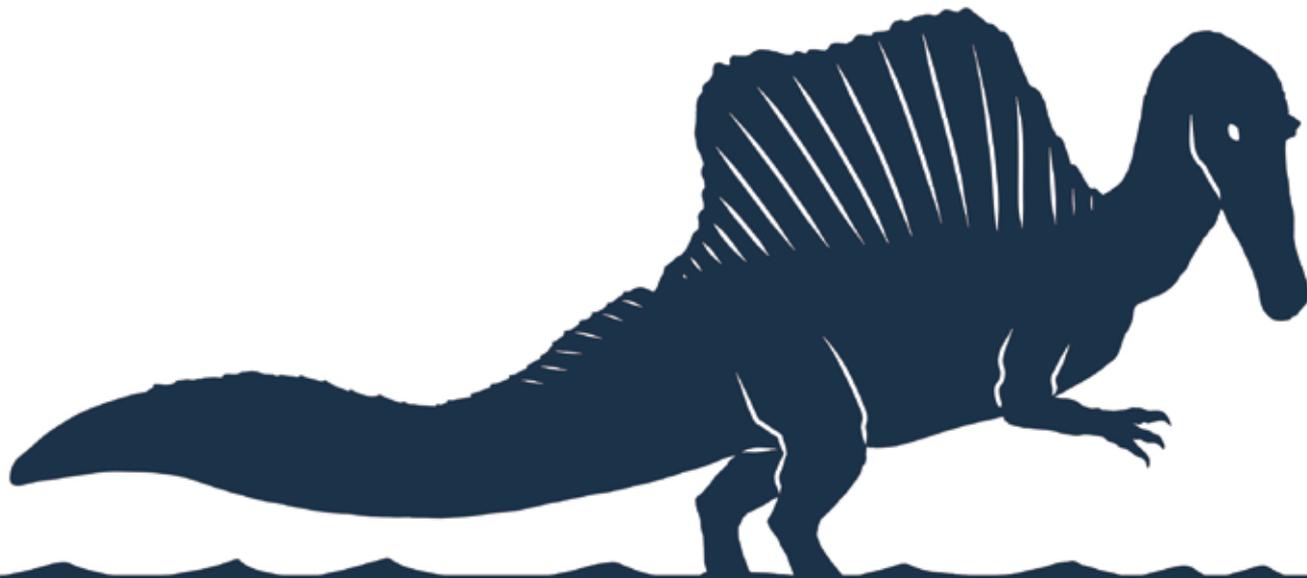
白山の巨大獣脚類の発見

白山は、石川・富山・福井・岐阜の四県にまたがる活火山だ。その山麓には、ジュラ紀から白亜紀前期にかけての時代に、海から汽水域に、そして淡水河川へと変遷した場所で堆積した手取層群という地層が、広く分布している。この手取層群が分布する、手取川上流の、とある沢を探索していると、上流から流れ落ちた、風化の進んだ赤褐色の泥岩塊が目に入った、手に取るとタニシや淡水二枚貝の化石が岩の表面に覗いている。同じような泥岩を探しながら沢を登ると、表面にタニシ化石が浮き出した、大きめの泥岩塊を見つけた。早速、ハンマーで叩くと、パカンと割れ、その小口から、薄い板状の不思議な化石が飛び出してきた。目を凝らすと、その断面はスポンジ状で、どうやらカメの甲羅の一部のようだ。研究者の間で、カメ化石は、恐竜化石発見の道標といわれている。カメやワニの生息する場所は、恐竜たちにとっても、水を飲み、餌を捕食する生活に適した環境だったことだろう。この沢の上流に恐竜化石が眠っているに違いない。そう確信し、更に沢の上流に歩を進めた。根を詰めて化石を探していると、時は昼を過ぎ、昼食を食べるため、座り易そうな砂岩の巨大な転石の上に陣取った。おにぎりをおぼりながら、何気なく視線を下にやると、その巨岩の根元に、泥岩塊があるのが目に入ってきた。(大物化石は、こういうリラックスした時に発見することが多い) 慌てて岩上から飛び降り泥岩塊を手を取

ると、タニシとテトリニッポノナイアという淡水生二枚貝化石が浮き出していた。素晴らしい産状だ!と、おもわず目を凝らすと、私の視点は、ある一点に釘付けになった。岩が欠けた部分に黒褐色の何かが、鈍い輝きを放っていたからだ、その輝きには見覚えがあった。以前にアメリカのミネラルショーで購入した、ティラノサウルス類の歯断面に酷似していたのだ。まさかと思いながら、慎重に周りの岩を割り欠くと、徐々に鋭く尖った歯が、その巨大な姿を現わした。ギザギザのまるでステーキナイフのような鋸歯があり、先端には歯が擦れ合った時に出来る雨滴状の咬耗面が見えている。おそらく左上顎の歯だろう。長らく化石採集をしてきたが、それまでの発見とは比較にならない程の大物化石の発見である。全身に震えが来た。そして山中で一人、両手を上げ、自然と「やったー!」と、大声を張り上げていた。

採集した歯の化石をクリーニングすると、歯の長径は8.5cm、同じ手取層群産で、福井県勝山市から産した獣脚類、フクイラプトルの歯化石の長径が4cm弱、体長は4m程度であったと推定されている。白山獣脚類を、よく似た歯の形状の北米産アロサウルスと比較し、体長を割り出すと、全長8.5~9mとなる。これはフクイラプトルのほぼ2倍の体長。まるで冥界の魔王のような姿が浮かび上がって来た。





NANIWA DINOSAURS EXHIBITION



代表 宇都宮聡

イラスト 川崎悟司 / CAN / Brian Vitocruz / チャンネル D (林大智)

裏表紙イラスト Brian Vitocruz

撮影 誌面デザイン 生物探検家トノムラ

協力 宇都宮美穂 / タミグサ

なにわの恐竜時代展 図録

発行：2026年3月4日

satsuma.su@docomo.ne.jp

印刷：株式会社グラフィック

定価 700円 (税込み)